



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)静岡東町賃貸マンション(S棟)新築工事	BEE	1.7	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点		取組み度	評価		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.5	/5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.3	/5		ふつう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.5	/5		がんばろう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)		得点	3.5	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③クレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①住宅性能評価 断熱等級4と同じレベルの性能になるよう外皮を設計した。 ④住戸部分ビニルクロスは耐用年数は20年 ④空調・給排水配管の更新必要間隔は40年以上</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤外構緑化指数21%になるよう、植栽や中高木の計画をした。 ⑥空地率46.4%を確保し、風の通り道を確保した。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦住宅性能評価 断熱等級4と同じレベルの性能になるよう外皮を設計した。 ⑩入居者へ省エネに関する説明を予定している。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑪住戸の大便器は、ECO 5仕様の節水型便器を設置した。 ⑬内装の接着剤に、有害物質がない事を確認した。 ⑬断熱材となる押出法ホリスチンフォーム及び硬質ウレタンフォームは、いずれもODP=0である。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭ライフサイクルCO2が、一般的な建築物の94%である。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p> <p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>			
	"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	3.3
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰機械・配管支持方法は、耐震クラスになるよう設計用水平震度を設定した上で決定している。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>		
		"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑲階高は、いずれの階も2.9以上を確保している。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮)</p> <p>㉑防犯性の向上のため、樹木の配置を視界を遮らないものにした。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>			
	"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.7
<p>■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上)</p> <p>㉒外構緑化指数21%になるよう、植栽や中高木の計画をした。 ㉒静岡市の景観条例に適合させ、まちなみ景観に配慮した。 ㉒空地率46.4%を確保し、風の通り道を確保した。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉒持続可能な森林から産出された木材/㉒温熱環境悪化の改善)</p> <p>㉒地表面対策率27%分の緑地を確保し、敷地外への熱的影響を低減した。 ㉒隣等間隔指数0.36分の空き地を確保し、敷地を通った風が回復しやすいようにした。</p>	<p>Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ㉒ まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ㉒ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ㉒ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ㉒ 温熱環境悪化の改善</p>			

CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)静岡東町賃貸マンション(S棟)	階数	地上9F
建設地	静岡県静岡市葵区東町20-1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	64 人
地域区分	7地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2021年11月3日
敷地面積	558 m ²	作成者	相模 明
建築面積	288 m ²	確認日	
延床面積	2,018 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 94%
③上記+②以外の 94%
④上記+ 94%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合	これは、CASBEE静岡2016年版(ver4.0)による評価である。
その他	0
Q1 室内環境	住戸居室の屋光率は2.79%とし、入居者が十分な自然採光のもとで暮らせるよう配慮した。また、F☆☆☆☆かつ、VOCの少ない建材を全面的に使用し、化学汚染物質対策を十分に行った。
Q2 サービス性能	外装材に40年耐久のタイルを、内装材に20年耐久のビニルクロスを採用し、仕上げ材が長持ちするようにした。
Q3 室外環境 (敷地内)	外構緑化指数63%分の植栽や中高木を、角地やアブローチに設け、入居者の出入りの快適性や緑地の確保に配慮した。また、景観条例に適合させ、周辺のまちなみに配慮した。
LR1 エネルギー	外皮の平均熱貫流率は全住戸において基準を満たし、住宅性能評価 断熱等級 4 と同じレベルの性能になるよう外皮を設計した。また、入居者に対し省エネに関する説明を行う事を予定している。
LR2 資源・マテリアル	ECO 5 仕様の大便器を採用し、節水ができるようにした。また、断熱材にいずれもODP=0押出法ポリイソフォーム・硬質ウレタンフォームを使用し、オゾン層破壊のリスクをなくした。
LR3 敷地外環境	地表面対策率75%分の緑地を確保し、敷地外への熱的影響を低減した。また、光害対策が「ドラウ」の過半を満たし、屋外広告物照明を行っていない。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される